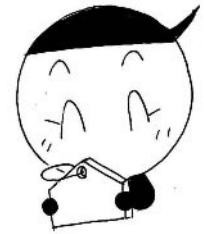




はやとくん通信

ファンクラブ & ユーザー
電子速記研究会発行



(記事抜粋)

2012.1 No.54

「はやとくんフォーラム2011」 & 電子速記研究会総会報告

～「はやとくんフォーラム2011」報告～

「はやとくんフォーラム2011」を、昨年12月17、18日に浅草セントラルホテルで開催しました。17日は約60名、18日は40名の参加で大盛況でした。

最初に遠藤会長から、「リアルタイムはやとくん」と「反訳はやとくん」がユニコード(Unicode)対応になった説明がありました。コンピューターがどうやって文字を選択してくるのか、文字化けがどうやって起こるのか、分かりやすいお話でした。

今年のテーマ

ハイスクールで 略語の特訓

脳もトレーニング!



次に、「はやとハイスクール」(学習支援ツール)を講師小西が説明しました。昨年11月にできた新しい「はやとハイスクール」は、Softalkというフリーソフトを利用して読み上げ機能が付きました。正しく打ると次の単語を読み上げてくれるので、ゲーム感覚で練習が楽しく進みます。また、苦手な略語を集めて自分用の練習データを簡単に作れることも、実際に実演して体感してもらいました。

そして、スタンフォード大学人類学部准教授の井上美弥子氏の講演は、アメリカのコートリポーターの制度や現状について、統計やアンケートを駆使しての正確な分かりやすいお話で、学者の方が研究してくださるってこんなにすばらしいことなんだと実感しました。



～講演 「裁判員制度における速記の役割」～

スタンフォード大学人類学部准教授 井上美弥子

井上先生は、日本の速記の歴史、特に裁判史における速記の役割の変遷を中心に研究されている方で、文化人類学の中でも言語人類学という分野が専門で、アメリカのコートリポーターの制度と現状についてお話をしていただきました。



【 連邦労働統計局の統計 】

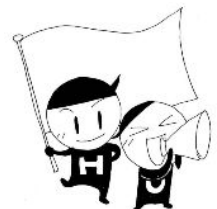
現在のコートリポーターは、全米で2万1500人。2018年には2万5400人に増えるだろうということで、統計で見ると、将来性のある職業と言われている。実際にコートリポーターの話を見ると、だんだん人数が減ってきて大変だと言うが、この差は、コートリポーターの職域がどんどん広がっていることが原因だろう。

【 賃金 】

アメリカのコートリポーターの賃金体系は複雑で、州の裁判所勤務だと、州の職員としての給料のほかに、反訳する部分では契約社員のような形をとるため、たくさん反訳をするほど、給料とは別にお金が入ってくるシステムになっている。一番高いお給料をもらっている人たちの時給は約43ドル89セント（3292円）、年収は9万1280ドルで、私立大学教員の中堅レベルと同等で、かなり良い。

【 団体 】

アメリカのコートリポーターの職業団体は強い力を有し、録音・録画機に仕事が取られていきそうなときに、これらの団体の代表が議員に働きかけをして阻止したり、訴訟を起こしたりして、自分たちの仕事を守っている。



・全米レベルの団体

全米コートリポーター協会：一番大きな団体で、会員は約2万2000人～2万3000人。ロビイスト活動（日本でいう院外活動。七、八年前のデータでは、年間約4000万円を使って、ロビイストを雇って活発に活動している。）をしたり、コートリポートが役に立つことや、自分たちが良い社会市民の一員であることを示すため、ボランティア活動をしたりしている。

全米逐語リポーター協会：ヴォイスライティング専門の協会。

合衆国コートリポーター協会：連邦裁判所のコートリポーターたちの団体。

・州レベルの団体もいろいろあるが、カリフォルニアでは、州の行政府の中にコートリポーター委員会があり、州内で働くコートリポーターの認定を行ったり、州内にあるコートリポーターの学校のカリキュラムや認定制度などを監視している。アメリカでは、約半数の州で、このような委員会を作ってコートリポーターの質の管理をしている。

【 現在のアメリカのコート・レポーティング制度の問題点 】

- ・2010年11月に、コネチカット州の司法府が、他の州にアンケートを取った結果をまとめた報告書の紹介。
- ・録音・録画に移行して失敗し、コートリポーターを法廷に復帰させた州の紹介。

【 コートリポーターとデジタル録音の経費の比較 】

全米コートリポーター協会が第三者のコンサルティング会社に委託をして調査したもの。カリフォルニア州ロサンゼルス郡のコートリポーターとデジタル録音を比較した。左がコートリポーターで、右がデジタル録音。

コートリポーターとデジタル録音の経費比較(2009)

Cost Component	Court Reporter	Digital Recording
1. Personnel (5 days)	\$2,743	\$1,288
2. Transcript (1,000 pages)	\$2,970	\$4,500
SUBTOTAL	\$5,713	\$5,788
3. Delivery costs	\$ 0	\$ 13.50
4. Tech acquisition/maintenance	\$ 0	\$ 35
5. IT network upgrades	\$ 0	\$1,110
6. Added servers	\$ 0	\$ 220
7. Management overhead	\$ 16	\$ 80
TOTAL COST COMPARISON	\$5,729	\$7,247.50

A study of Court Reporting and Digital Recording (DR) in the California and Florida Courts, prepared by JusticeServed

5日間の公判で、人件費は、コートリポーターの場合は2743ドル（約20万6000円）。デジタル録音の場合は、1288ドル（約9万6000円）。デジタル録音における人件費とは、機械がきちんと動いているかをチェックしたり、発言者を記録したりする人のもの。反訳費は、デジタル録音の場合、録音したものをテープ起こしするので、人件費と反訳費をトータルすると、同じくらいの値段となる。

さらに、デジタル録音では、作ったものを関係者に送る費用や、インターネットのサーバーのメンテナンスやアップグレード費用、新しく付け加えられたサーバーや、それを処理する人たちの人件費も掛かるため、トータルで見ると、デジタル録音のほうがお金が掛かるという結果が出ている。一般的にはデジタル録音のほうが安いと言われているが、こういう計算の仕方もある。

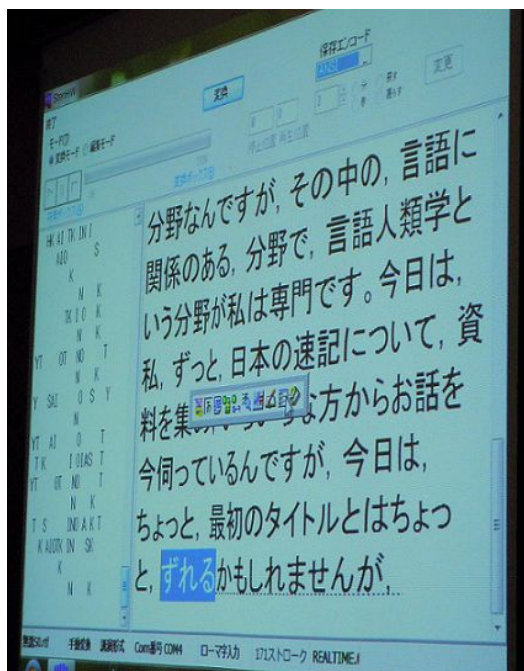
録音反訳のほうが経費がかかるのね

最近では、全米コートリポーター協会は、録音・録画の波は避けられないということで、どうやって一緒にやっていくかということを考える動きがあり、録音・録画もある程度の役割があるという見解を示しつつ、コートリポーターの仕事が減らさないように、しかもその機械を使いながら、迅速で正確な記録を作っていこうという動きになっている。



【まとめ】

- ①録音・録画を使ったとしても、本当にそれを理解するには読むという行為が必要で、どこかで反訳をしなければいけない。録音・録画に全面移行して、裁判所からコートリポーターがいなくなれば、今まで州や郡が管理していた料金体系が崩れてコートリポーターの市場が自由化され、裁判を受ける側の貧富の差が、そのまま裁判に反映されてしまうのではないか。
- ②アメリカでは、今までコートリポーターがテープや原本を持っていたが、デジタル化されると、データが裁判所のネットワークで集中管理されることになり、自分が速記したものが、タイプしているその場から中央のサーバーに入り、自分の手から離れてしまう。この立会いと反訳の分業が、これからのコートリポーターの収入や職業倫理にどう関係してくるのだろうか。



(パワポ画面の合間にリアルタイム字幕を披露) →